

iFlorida

ー産官学の連携によるプローブカーの取り組みー

牧村 和彦* 鈴木 紀一*

By Kazuhiko MAKIMURA and Norikazu SUZUKI

1. はじめに

米国では深刻化する道路渋滞の解決、国家セキュリティ確保を目指し、産官学が連携した交通情報提供や交通マネジメントの高度化を進めている。

著者らは2005年1月にフロリダ DOT を訪問し、最新の IT (情報技術) を用いた交通データに関する取り組みについてヒアリングする機会を得た。本論ではその概要を紹介する。

2. iFlorida の概要

フロリダ州 DOT (Department of Transport) では、「iFlorida」計画の一環として、既存の有料道路料金支払いに利用しているタグ(E-Pass, SUN-Pass)を用い、業績評価や旅行時間情報サービスを進めている。この iFlorida 計画は、産学官が連携したコンソーシアムにより運営されている。

オーランド都市圏では、路上に DSRC ビーコンを設置し(写真-1)、有料道路や幹線道路のリアルタイム交通状況を DOT の交通マネジメントセンターでモニタリングし、道路管理の支援情報として活用している。本エリアには50万台のタグが普及



写真-1 DSRC ビーコンとタグ

左は一般道に設置された DSRC ビーコン。右は車両に設置する有料道路用のタグ

しており、幹線道路網に配備された光ファイバー網を通して、オーランドの交通マネジメントセンターに情報が送られる。計画ではハイウェイや有料道路の全路線をカバーし、一般道の約128マイル(約205 km)をカバーする予定である。

州、有料道路会社、郡、市、公共交通機関などの各主体の情報はすべて、フロリダ中央大学のデータウェアハウスに集められ、各主体はこのデータウェアハウスにアクセスでき、他機関の状況が把握可能である。ドライバーのプライバシーに配慮し、タグから収集される ID や通過時刻は暗号処理され、区間旅行時間といった集計値として処理される。旅行時間データはドライバーに対しては、ウェブやテレビ、511、道路上の可変情報板を通じて旅行時間や渋滞情報として提供され、道路管理者は、日々の道路管理や災害時の避難経路案内や業績評価などに活用しているとのことであった。

3. おわりに

今回の調査を通じて、フロリダ州 DOT の技術者の意識の高さと各関連機関との密な連携が印象的であった。情報提供だけでなく道路管理者と交通管理者が連携し、規制、誘導においても迅速な対応が図られている。また、FHWA がモデル事業を一ヶ所に集中して投資して実施することにより、効果をアピールするという戦略は、我が国の社会実験でも大いに参考となるであろう。

謝辞

本稿をとりまとめるにあたり、意見交換や情報提供をいただいた FHWA の Ms.Toni Wilbur、フロリダ州 DOT の Mr.Jerry Woods と Mr.Scott Silva 氏に謝意を表します。

*交通研究室